

眼底観察評価マニュアル

1. 「これから眼底を拝見する」「やや眩しい」を告げて了解を得れば1点。
2. 屈折異常（眼鏡使用）の有無を確認すれば1点。
3. 眼底鏡（直像鏡）のスイッチを入れランプやダイヤルを確認すれば1点。
4. 視線の方向を指示すれば1点。
5. 直像鏡の持ち方が正しければ1点。
（右目—右手、左目—左手、直像鏡のダイヤルに示指をあてる）
6. 診察手順は、直像鏡のダイヤルを確認した後、患者の頬に直像鏡を固定してから接近しても、
検者が覗きながら接近してもよいこととする。
7. 片眼のみならば0点、両眼を正しい方法で観察すればよい。
8. 両眼の眼底所見を図示できればよい。

ステーション 8 (課題 3)

(記症例の下肢の診察)

患者：太田 裕 58歳 男性

前のステーションで医療面接をした人です。300メートルほど歩くと右下肢痛があり、少し立ち止まると痛みが軽減するそうです。足先のしびれもあります。診察をして所見を述べなさい。

(このステーションの時間配分は 3～5 分を目安にして下さい)

* 作成者注：第4課題で食事療法についてSPに説明することも可能。ただしその場合は時間の関係で第2課題または第3課題を省略する。

下肢診察評価表

受験番号

受験者氏名

評価者氏名

	2	1	0
1. これから下肢を診察する旨を告げたか		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
2. 仰臥位で大腿部（膝上部）から足先までを露出したか		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
3. 色調を述べたか		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
4. 足部の変形の有無を述べたか		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
5. 皮疹、鶏眼、胼胝、潰瘍、壊疽、水疱、爪の変化の有無を述べたか <input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
6. 触診で皮膚温の左右差を述べたか		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
7. 足背動脈拍動を触診したか		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
8. 後脛骨動脈拍動を触診したか		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
9. 膝窩動脈拍動を触診したか		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
10. 脛骨前面ないし足背で浮腫の有無を確認したか		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
11. アキレス腱の肥厚の有無を確認したか		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
12. 内果で振動覚を診たか（低下の有無は省略）		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

合計点 13点満点

点

← 良 い | 良くない →

【概略評価】 6 5 4 | 3 2 1

下肢診察評価マニュアル

1. 「これから足を診察する」こと、なぜそれが必要かをを告げて了解を得れば1点。
2. 仰臥位で大腿部（膝上部）から足先までを露出すれば1点。
3. 色調について述べれば1点。
4. 変形の有無を述べれば1点。
5. 胼胝、潰瘍、壊疽、の3項目の言葉がそろえば2点、全く述べなければ0点、それ以外ならば2点。
6. 触診での皮膚温を診れば1点。（左右比較）
7. 両側の足背動脈拍動を診れば1点。（片側では0点）
8. 両側の後脛骨動脈拍動を診れば1点。（片側では0点）
9. 両側の膝窩動脈拍動を診れば1点。（片側では0点）
10. 脛骨前面ないし足背で浮腫の有無を確認すれば1点。
11. アキレス腱を触診すれば1点。
12. 説明した上で振動した音叉を内果に当てれば1点。

ステーション 9 (課題 1)

患者：田中ひろし 8 か月 男児

ここはあなたが担当する小児科夜間救急外来です。8か月の男児がけいれん発作を起こし、母親に抱かれて、この夜間救急外来を受診しました。来院時には子どものけいれんは止まっていたましたが、母親の表情はとても不安そうです。

まず7分間で医療面接を行いなさい。(5分間、経過した時点で合図します)

医療面接終了後に次の課題を示します。

このステーション全体の制限時間は15分です。

〈事例設定〉 — (小児) —

田中ひろし 8か月 男児

◇場面設定

発育、発達は正常、今朝まで元気であった。昼の離乳食がいつもより、少なかった。その後、いつもよりやや元気がなかった。夕食時に離乳食をたべさせたら、ほとんど食べなかった。その後、急に眼球固定、四肢をつっぱり、全身性のけいれんへと発展した。

8か月の模擬患者は利用できないので、ゴム製の人形を準備する。できれば大泉門がわかるようにマーカーで印しをつけておく。

◇母親の気持ち

初めてのけいれんなので、気持ちが動揺し、不安で一杯である。

とりわけ、患児に呼びかけても反応がなく、眼球上方固定に非常に驚いている。

◇現病歴：

— 何もさえぎられていないときに母親が自ら話す内容 —

患児は朝まで元気であった。当日の昼ごろから食欲がやや低下した。夜になって、さらに食欲が低下したので、憂だと感じていた。すると急に目つきがおかしくなり、手足をつっぱったので、これはおかしいと思ったら、強直性から間代性の全身性けいれんへと発展した。それで大急ぎで夜間救急外来を受診することになった。来院時にはけいれんは止まっていた。

(注)

(1) 「相づち」「語尾の繰り返し」は「さえぎり」とはしない。

(例) Dr 「なるほどね」「ああ、そうですか」

(2) 話しの内容について母親役のSPが話した直後にDr.が確認するのは「さえぎり」とはしない。

(例) SP 「けいれんを起こしたのは初めてなんです」

Dr 「初めてなんです」

◇医師から尋ねられたら、話す内容

1. 最初のこどもか、どうか = 最初のこども
2. はじめてのけいれんか、どうか = はじめてのけいれん
3. 発熱の有無、いつからの発熱か = 当日の午後の発熱
4. 生まれて初めての発熱か、どうか = 初めての発熱
5. 体温は何度であったか = 39℃
6. けいれんの持続時間は = 3 分間
7. けいれんの状況 = けいれん時、眼球上方固定、四肢の強直、よびかけに反応せず
8. けいれん発作が対称性か、非対称性か = 対称性
9. 咳きや鼻水などの上気道炎症状の有無 = みられなかった
10. 嘔吐や下痢などの随伴症状の有無 = なかった

11. 発疹の有無を尋ねた = なかった
12. 食欲をたずねた = 当日の午後からやや低下していた
13. 不機嫌の有無をたずねた = やや機嫌がわるかった。また笑顔がみられなかったし、やや元気がなかった
14. けいれん後の四肢の麻痺をたずねた = 麻痺はなかった
15. けいれん後の排尿、排便をたずねた = オムツはぬれていたが、排便はなかった
16. 服薬の有無をたずねた = 何も飲ませていない
17. 最近のワクチン接種をたずねた = 何も接種していない
18. 発達のチェックをした = 特に問題はない

◇既往歴

1. 妊娠中の異常、出来事をたずねた = 特別なことはなかった
2. 分娩時の異常、出来事をたずねた = 特別なことはなかった
3. 乳児期の異常をたずねた = 特別なことはなかった
4. 食物アレルギーなど、アレルギーの既往を尋ねた = 特になし

◇家族歴

兄弟姉妹はいない。父親に熱性けいれんの既往がある。他には特記すべきことなし

◇医師の質問に対する対応上の注意点

1. 「ほかに何か症状はありませんでしたか？」などと、漠然と質問された場合、「特に思い当たりません」と答える。
2. 具体的な症状を一度に複数分、質問された場合
質問されたもの、すべてに答える。
3. 話しが進まなくなり、「言い忘れたことは？」と聞かれた場合は、患者の気持ちなど、話していないことが多くても「特にありません」と答える。
4. 台本にない内容についての質問には、「特に問題ない」「覚えていません」などと答えて下さい。
プライベートなことと言いたくない場合、言わなくて結構です。ただし、そのことはどの受験者に対しても言わないで下さい（対応に一貫性を持たせ、受験生に公平になるようにする）
5. 医師から十分に尋ねてもらって、まとめが適切に行われ、そうした状況で「何か、ぬけ落ちていることがありますか」と聞かれた場合は、話せなかったことを話して下さい。

◇その他、母親役のSPは不安で動揺している感じが表現できていれば、よろしいです。

【面接の進め方】

	1	0
1. 「大変でしたね」などの声かけをした	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
2. 名前確認（フルネーム）をした	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
3. 自己紹介をした	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
4. 適切な対人空間をとる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
5. 適度に視線を合わせていた	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
6. 適切で丁寧な言葉づかい	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
7. 専門用語を用いない	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
8. 最初は母親が自由に話せるように配慮した	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
9. 話しを促進させた	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
10. 話しを要約し、母親に確認した	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
11. 言い忘れがないか、確認した	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

【面接で得られた情報】

1. はじめてのけいれんか、どうかを聴いた	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
2. 発熱の有無、体温を尋ねた	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
3. いつからの発熱かを尋ねた	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
4. けいれんの持続時間をたずねた	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
5. けいれん時の状況をたずねた	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
6. 発作が対称性か非対称性かをたずねた	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
7. 咳の有無をたずねた	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
8. 嘔吐、下痢の有無を尋ねた	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
9. 発疹の有無をたずねた	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
10. 食欲をたずねた	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
11. 不機嫌の有無をたずねた	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
12. 服薬の有無をたずねた	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
13. 最近のワクチン接種の有無をたずねた	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
14. 妊娠、分娩時、乳児期の既往をたずねた	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
15. 発達の評価をした	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
16. けいれん後の麻痺の有無をたずねた	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
17. けいれん後の排尿、排便をたずねた	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
18. 両親や兄弟の熱性けいれんやてんかんの既往をたずねた	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

合計点 29点満点

点

← 良 い | 良くない →
【概略評価】 6 5 4 | 3 2 1

(この医療面接全体の印象を6段階で評価して番号に丸をつける)

医療面接評価マニュアル

【面接の進め方】

1. 「大変でしたね」「驚いたでしょう」「心配だったですね」などの声かけをすれば、1点、そうでなければ0点。
4. 対人空間は90度法、もしくは視線の合いやすい位置なら1点、そうでなければ0点。
5. 視線を合わせる時間が50%以上で1点、そうでなければ0点。
6. 丁寧語、敬語は多少、間違えても気持ちがあれば1点、そうでなければ0点。
9. 促進については、「そうですか」「それで」などの促進法を用いていれば1点、その他の方法でも雰囲気よく促進できていれば1点、そうでなければ0点。

【面接で得られた情報】

11. 不機嫌の有無については、ストレートに「機嫌はどうでしたか」と尋ねてもよいが、「笑顔はみられますか」ならさらにベターで両者とも1点とする。
15. 発達の評価については、頸坐り、寝返り、御座り、ハイハイの4つの中から2つ以上を尋ねて1点、そうでなければ0点。

【計時開始】

1. 試験開始と同時にストップウォッチで経過時間を測定し始める。

ステーション 9 (課題 2)

患者：田中ひろし 8 か月 男児

この患者を診察しなさい。

また診察しながら、所見について母親に、
声を出しながら説明しなさい。

制限時間は 5 分間です。5 分間で診察しな
さい。

【患者さんへの配慮】

- 1. 診察前に母親にその旨を伝え、了承を得たか
- 2. 手や聴診器を暖めたか

1	0
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

【診察手技】

- 1. 全身状態のチェックをした
- 2. 意識状態（呼びかけへの反応など）をチェックした
- 3. けいれんの持続の有無を、眼球固定の有無や瞳孔の反応を見て確認した
- 4. 外傷がないか、チェックした
- 5. 大泉門の診察をした
- 6. 眼底をチェックした
- 7. 項部硬直をチェックした
- 8. 胸部を診察した
- 9. 腹部を診察した（肝脾腫も）
- 10. 口腔を診察した
- 11. 耳、鼓膜を診察した
- 12. 皮膚所見のチェックをした
- 13. 腱反射、バビンスキー反射をチェックした
- 14. 発育（体重、身長、頭囲）をチェックした

<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

合計点 16点満点

点

← 良 い | 良くない →
 【概略評価】 6 5 4 | 3 2 1

（この医療面接全体の印象を6段階で評価して番号に丸をつける）

【患者さんへの配慮】

1. 「それでは診察をさせていただいてよろしいでしょうか」などと、了解を得ると1点、そうでなければ0点。
2. 手や聴診器を暖めたか、どちらか1つで1点、そうでなければ0点。

【診察手技】

1. 全身状態のチェックとはバイタルサインのこと。
2. 意識状態のチェックは「呼びかけへの反応」である。医師がよんでも、母親が呼びかけても（母親に呼びかけてもらうのがベターです）1点。
3. けいれんが持続しているか、どうかは眼球上方固定（側方視はまれ）や瞳孔（けいれん時は散大している）で判断します。なおけいれん時の対光反射は減弱しています。
5. 大泉門の診察では膨隆を見るために、大泉門を押さえる手技を示せば1点、そうでなければ0点とします。
6. 眼底診察ではアプローチの仕方で判定し、スムーズであれば1点とします。
なお熱性けいれんでは眼底出血はみられないのですが、「ゆさぶり症候群」では出血がみられ、鑑別上、重要です。
7. 項部硬直では、両腕の肘をつけて、頸を持ち上げる手技を示せば1点、肘がついていないと0点です。
13. 腱反射やバビンスキー反射は左右差をみるのが、重要。熱性けいれんでは腱反射は亢進しているが、2つの反射の左右差を見る手技を示せば1点、片方だけだと0点。
14. 体重、身長、頭囲は母子手帳の数値を尋ねても、実際に測定しようとしても1点です。

ステーション 9 (課題 3)

患者：田中ひろし 8 か月 男児

5分経ちました。診察時間終了です。

残りの3分間で考えられる疾患、今後の生活上の留意点、予後について説明しなさい。

母親への説明（評価表）

受験番号

受験者氏名

評価者氏名

	1	0
1. 熱性けいれんがもっとも考えられると話した	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
2. てんかんではないと説明した	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
3. 長期的な抗てんかん薬は不要と話した	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
4. 予後は良好であると説明した	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
5. 再発の可能性を説明した	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
6. 発熱時のジアゼパムの予防効果を説明した	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
合計点 6点満点		点

【母親への説明】 評価マニュアル

1. 熱性けいれんがもっとも考えられることを、年齢、症状とくにけいれんの持続時間、診察所見から説明できれば1点、熱性けいれんという疾患名がでるだけでも1点、でなければ0点。
2. てんかんでないことをはっきりと説明できれば1点、そうでなければ0点。

(注) この症例のねらい

小児でのもっともコモンな疾患の代表である熱性けいれんをとりあげました。

「熱性けいれん」でもっとも重要なことのひとつは、細菌性髄膜炎の除外です。そのために、大泉門の診察を重視し、大泉門が閉鎖する年齢以前の年齢設定としました。この年齢では項部強直はチェックしにくいのですが、細菌性髄膜炎の可能性がある場合には必須です。外傷のチェックは最近、増加している虐待の鑑別上も重要です。外傷がなくても、眼底出血は shaken baby syndrome を強く疑う所見として重要です。

ステーション10

禁 煙 支 援

患者：^{はなわ} 塙 ^{さちこ} 幸子 67歳 女性

ここは総合病院の禁煙外来で、今は午前診です。右足のASO（閉塞性動脈硬化症）の疑いで先日外科外来を受診し、精査のために血管造影の検査入院を予定している患者さんが禁煙支援目的で紹介されてきました。

15分間で禁煙支援のため最終的に1週間後の再診の約束を取り付けるところまでを行ってください。

このステーション全体の制限時間は15分間です。係員の合図の後で患者さんをお呼び入れてください。

〈事例設定〉一（禁煙支援）一

埴 幸子（はなわ さちこ）67歳 女性 地方都市で家族と在住、食堂経営

◇場面設定

最近、歩くと右のふくらはぎが痛むようになり、総合病院の外科外来を受診したところ、おそらく閉塞性動脈硬化症（ASO）による足の循環不全だろうということで、精密検査をするために、3日後に入院を予定している。今日は外科医から指示された同じ病院の内科の禁煙外来に禁煙支援を受けるために受診したところ。

◇患者の気持ち

外科の先生にはタバコを止めないとそのうち足を切らなくてはならなくなるかも知れないと威かされ、足の状態にすごく不安を持っている。

◇現病歴

2人目の子供が生まれた後27歳の頃から、育児の疲れや睡眠不足、ストレス等もあって夫のまねをしてタバコを吸うようになった。知り合いもみんな煙喫者だし（何人か止めた人もいるが）、夫はもっとヘビースモーカーだ。お客さんとの付き合いや家やお店でのストレス解消などのためにも、ある程度のタバコはしようがないと自分では思っている。今まで禁煙を試みて何度か止めたこともあるが、いつも頭の中に霧がかかったような状態になって何も手がかなくなる上に、イライラがものすごくひどくなってしまい、周りの方が見かねて、「そんなにイライラして当り散らすなら、もうあきらめてタバコを吸ったら」と言われて禁煙を中断してしまっている。時々医者にかかった時などにタバコを止めるようにと言われてたりもするのだが、どうも先生達にはそれがどんなに難しいことか分かっているように思えないし、自分もそんなに禁煙しようとは強く思っていなかった。最近、500mほど歩くと右のふくらはぎが痛むようになり、病院を受診したところ、おそらく閉塞性動脈硬化症（ASO）による足の循環不全だろうということで、精密検査をするために3日後に入院を予定している。入院して足の血管の造影検査をし、必要なら手術をするかも知れないと言われている。外科の先生にはタバコを止めないと足の状態はますます悪くなり、そのうち足を切らなくてはならなくなるかも知れないと威かされ、いま自分の足の状態にすごく不安を持っている。

◇性格

明るく、話し好き。3人きょうだいの真ん中として育ったためか、わがままに育っているとよく言われる。

◇生活歴

地元の高校を卒業後、市街の中心部にあった地元の百貨店の売り子をしていて、そのレストランの調理師をしていた夫と恋愛結婚した。結婚後は退職して専業主婦をしていたが、2人目の子供が2歳の時、夫が仕事上のトラブルから百貨店を急に辞めて急遽、地元の商店街に食堂を出す事となり、自分も店を手伝う事になった。開店当初は、子育てがただでさえ大変なう

えに、慣れない店の手伝いもあって大変ストレスも多かったし体もきつかった。子育てが一段落してからは店も結構繁盛していたが、ここ十年くらいは郊外に大きなスーパーや安売り店、郊外レストランなども増えたために、商店街自体の人出も減ってしまい、最近は昼食と夕食の時間帯だけが常連さんで賑わう程度で、商売もまあ何とか食っていけるくらいのところ。もう数年やったら店を閉める事も考えなくてはとも考えている。2人の娘はともに結婚してそれぞれ遠方の都市部に家庭をもっており、孫達も2人ずついる。

◇タバコ・アルコール暦

20本／日×40年。朝起きたら、10分以内にタバコを吸わないとポーっとして目がさめないし、そのまましていると今度はイライラして落ち着かない。

アルコールは付き合い程度に飲むだけ。

◇既往歴

特になし

	2	1	0
【禁煙支援のプロセス】			
1. あいさつ、自己紹介、患者確認をした		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
2. 最初に患者が自由に話が出来るように配慮した		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
3. 視線を合わせ、適切な姿勢・態度でいた		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
4. 話しを促進させる言葉がけやうなずき、相槌を使った		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
5. 共感の言葉を返した	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
6. 心理・社会的側面の情報を得た	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
7. 患者の理解を確認し一方的説明にならぬよう配慮した		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
8. (最後に) 質問や言い忘れたことがないか尋ねた		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
【禁煙支援のコンテンツ】			
9. 緊張している患者のアイスブレイクができた		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
10. 病気や喫煙、禁煙に対する患者の思いを傾聴した		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
11. 喫煙歴やニコチン依存の度合いについて評価した	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
12. 喫煙と病気、禁煙の必要性等を分りやすく説明した	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
13. 患者の思いや希望と医学的な見解との一致点や相違点を明確にし要約して相互に確認しあった		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
14. 今までの禁煙の試みをねぎらい低下した自己効力感を上げるような働きかけを行った	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
15. 一致や相違を踏まえたうえで最適と思われるプランを勧めた		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
16. ニコチン補助療法や行動療法について助言した	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
17. 具体的に今後の取り組みについて患者と話し合った		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
18. 具体的な目標設定をする際に患者の参加を促した		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
合計点 24点満点			点

← 良 い | 良くない →
【概略評価】 6 5 4 | 3 2 1

(この医療面接全体の印象を6段階で評価して番号に丸をつける)

【禁煙支援のプロセス】

1. あいさつ、自己紹介、患者確認をした

挨拶の言葉と共に、丁寧な言葉で、はっきりと自己紹介し、患者の名前をフルネームで確認した場合は1点。問題があれば0点。

2. 最初に患者が自由に話ができるように配慮した

「今日はどういうことで禁煙外来に来られましたか」という類の医師の質問に対して、患者さんが話し始めるが、それに対して医師がすぐに会話の主導権を奪って矢つぎ早にclosed questionで質問攻めするのではなく、open-ended questionをうまく使って、なるべく患者が自由に話ができるように配慮したかどうかをみる。患者の話が続くようならそれを遮らずに聴き、話が途切れたようでも一呼吸おいて話が続くのを待ち、患者があまり話さないようならもう少し詳しく述べるように促していれば1点。すぐに話を遮ったり主訴の直後から質問攻めにしていたら0点。相槌、うなずきは質問には含めない。

3. 視線を合わせ、適切な姿勢・態度でいた

適切なアイコンタクトを持ち、コミュニケーションを阻害するようなボディランゲージ（貧乏ゆすり、ペン遊び等）を発してなければ1点。視線を合わせず、不適切な姿勢・態度であれば0点。

4. 話しを促進させる言葉がけやうなずき、相槌を使った

話しを促進させる言葉がけ（もっと詳しく話してください、それから？等）やうなずき、相槌（ハイハイ、エーエー等）をうまく使えていたら1点。十分にうまく使えてない場合は0点。

5. 共感の言葉を返した

患者さんの足の状態に対する不安や心配、禁煙に対する揺れ動く気持ち（必要性はわかるけど難しい）等に対して、気持ちのこもった共感の言葉（ご心配ですね、つらいですね等感情を表現する言葉）を返すことが出来ていれば2点。単に事実についてのオウム返し（禁煙がうまくいかないのですね等）ないしは、言葉による共感はなくとも共感的な雰囲気醸し出せていれば1点。全く出来てなければ0点。

6. 心理・社会的側面の情報を得た

（足の状態が不安なこと）、（禁煙を試みてもうまくいかないこと）、（夫もヘビースモーカーで禁煙が難しいこと）、（店の接客上も困難があること）、（店の経営も余り良い状態でないこと）、（娘達のサポートが得難いこと）等のうち2項目以上を明らかに出来ていれば2点。1項目なら1点・情報なし0点。